

(様式1)

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立早稲田小学校

■ 学校の共通目標

授業づくり	重点	①タブレット端末をフル活用し、児童一人一人の個別最適化学習を推進する。 ②教師と児童で授業を創り、問題解決型の学習を進めていく。 ③授業のユニバーサルデザイン化を推進し、自分に合った多様な学びへの授業改善と、児童一人一人が分かりやすい授業づくりを展開する。	中間評価	最終評価	
		①児童が安心して学校に通えるように、新型コロナウイルスの感染防止策を徹底するとともに、安全・安心を第一に考え、学習に集中して取り組める環境を整える。 ②互いに認め合い励まし合える学級づくりを進めるとともに、ICT機器等を効果的に活用し、学習効果を高める。 ③常に保護者・地域と連携し、教育環境を整え、児童が学びに向き合い、自ら考え行動する教育を推進する。			
環境づくり					

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組み（10月）	最終評価（2月）
1	国語				
	算数				

学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組み（4月）	中間評価・追加する取組み（10月）	最終評価（2月）
2	国語	<p>(学) 新出漢字練習や学習、読書に対して意欲的に取り組もうとしている児童が多い。</p> <p>(学) 文字の定着、平仮名の字形、「てにはは」や小さい「や、ゆ、よ、つ」を文章の中で正しく使うことの定着には個人差が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを分かりやすく文章に表したり、正しく文章に表したりすることに苦手意識をもっている児童がいる。 相手に伝わるように話し、大切なことを落とさずに聞くことに課題がある児童がいる。 文章を書く際、「や、ゆ、よ、つ」を文章の中で正しく使うことに個人差が生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末のまなびポケットなどの学習アプリを活用し、反復練習をすることで、漢字の定着を図る。 様々な教科で自分の考えをもたせ、文章化する機会を多く作る。 一年間を通してスピーチを行い、相手に伝わるように話す力、興味をもって聞く力を身に付ける。 授業の中で、ペアの話合い活動を設定し、「聞く」「話す」力を育てていく。 漢字の学習では、新出漢字を使った文章作りを行いながら、既習内容の漢字も使うように繰り返し指導する。 一人一人の進度や課題に合わせて学習ができるように、デジタル教材を活用する。繰り返し学習することで、基礎基本の定着を図る。 		
	算数	<p>(学) 意欲的に取り組もうとしている児童が多い。また、自分の考えをノートに書き表そうとする児童が増えてきている。</p> <p>(学) 繰り上がりのたし算、繰り下がりひき算の定着には個人差が見られる。特に定着に時間がかかる児童への指導は、今後も引き続き個別支援をしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算はできるが、考え方を説明することに苦手意識をもっている児童が多い。 基本的な計算をする力が定着していない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末のまなびポケットなどの学習アプリを活用し、反復練習をすることで、理解の定着を図る。 問題解決的な学習を取り入れ、自分の考えを説明する機会を多く作る。 定着に時間を要する児童に対して反復学習を通して、計算問題が定着するようにする。また、計算の説明ができるように取り組ませる。 一人一人の進度や課題に合わせて学習ができるように、デジタル教材を活用する。繰り返し学習することで、基礎基本の定着を図る。 		
3	国語	<p>(学) 新出漢字や学習、読書に意欲的に取り組もうとしている児童が多い。しかし、シ・ツ、ソ・ンの書き分け、止め・はねを丁寧に書くことに課題がある。</p> <p>(学) 状況に合わせた話し方と文の組み立て方に課題が残る。</p> <p>(学) 聞く態度は良いが、集中して話の中心を落とさずに聞く能力がまだ十分に育っていない。</p> <p>(学) 言葉のまとまりを意識して音読することに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 字形を意識して正しく書くことに苦手意識を持っている児童がいる。 自分の考えを相手に伝わるように話すことや話を中心を落とさずに聞くことに課題がある児童がいる。 言葉のまとまりを意識して読むことに個人差が生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の指導において、部首や止めはねはらいを意識させて書かせる。繰り返し漢字の練習に取り組ませるためにタブレットPC(デジタルドリル)を活用する。 日記など、日常的に書く活動を入れる。 発表単元や日記を紹介する時にタブレットで撮った写真や画像を使用させる。 年間を通して国語辞典を活用し、語彙力を高める。 授業において、ペアやグループでの話し合い活動を設定する。 言葉のまとまりを意識させるために、音読の際、句読点も読ませる。 		
	算数	<p>(学) 学習意欲があり、真摯に課題と向き合っている児童が多い。</p> <p>(学) 基礎計算力の定着に個人差が見られる。</p> <p>(学) 道具の操作に苦手意識をもっている児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の定着に個人差が見られる。 式の意味を理解はしているが、自分の言葉で説明できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し計算ドリルやタブレットPC(デジタルドリル)に取り組ませ、基礎・基本の定着を図る。 課題に対する自分の考えを説明させるとともに、友達の考えと比較させ、よりよい解決方法を見いださせる。 		

4	国語	<p>(調)本校の正答率は65.7%と、全国平均より1.7ポイント高いが、区平均より0.8ポイント低い。観点別で見ると「文章を書く」項目が25.8%と極端に低くなっている。他の項目は概ね全国平均を上回り、区平均と同等である。</p> <p>(学)ひらがなであっても字形を整えて書くことができない児童が多い。</p> <p>(学)考えたことや思っていることを、文章にして言葉や書字で表現することが苦手な児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを分かりやすく文章に表したり、順序を考えて表したりすることに課題がある児童が見られる。頭では考えていることがあっても、それを文で表現する方法が分からない児童が多い。 ・一つ一つの字を丁寧に、マスや罫線に沿って書くことが難しい児童や字を丁寧に書く習慣がついていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まなびポケットのデジタルドリルを活用して、止め、はね、はらい、書き順に気を付けて書く習慣を付けさせ、字形の整った字を書く習慣を付けさせる。 ・授業後に書く学習感想や、理科の実験や観察から気付いたことを書く活動などを細かく指導するようにする。文章を書く際に、「～は」などの主語をはっきりさせることや、「～からです。」などの文末表現の仕方など、話型を伝えてから書かせることで、書き方を定着させていく。 ・授業中のノート指導や、漢字の書き取りやテストなどで、丁寧に書くことを根気強く指導していく。 		
	算数	<p>(調)本校の正答率は70.9%と、全国平均を2.9ポイント上回っているが、区平均を2.2ポイント下回っている。観点別に見ると「図形」の項目が全国平均、区平均共に大きく下回っている。</p> <p>(学)基本的な四則計算の技能や、考え方などの知識は習得している児童は多いが、算数が苦手な児童とそうでない児童の差がとても大きい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図形に関する用語などの知識は理解できているが、まっすぐ線を引くなどの作図の基本的な技能が苦手な児童が多い。 ・既習事項の定着に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まなびポケットのデジタルドリルの、「ベーシックドリル」と「パワーアップドリル」を活用して児童の習熟度に合わせた適用問題に取り組みせ、基礎基本の定着を図るとともに、課題に取り組むことが苦手な児童も意欲的に活動できるようにする。 ・普段の授業から、定規を使って線を引いてノートを書いたり、長さを丁寧に細かく計測させたりする習慣を身に付けるように指導する。 ・単元が始まる前に行うレディネステストの結果を活用して、単元ごとに特に苦手としている児童をしっかり把握する。基本レベルの少人数指導の人数を少なくし、個別支援の充実を図っていく。また、担任や少人数担当教員と、児童の学習の進捗状況を常に共有し、的確に各学級での補充の学習を進められるようにする。 		
	国語	<p>(調)前年度の結果から国語全体を見ると、目標値・区平均を上回る結果となった。ただし、「書くこと」については目標値が8ポイント以上、下回っている結果となった。漢字を書く、文章に活用するといった点で課題が見られている。</p>	<p>(学)文章を書くことに慣れていない児童が多く、語彙力が児童によって大きく差がある。</p> <p>(学)漢字を丁寧に書こうという児童が見られるが、字形を整えて書くことに課題のある児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリルを活用し、漢字を反復練習することで既習事項の内容や新出漢字の学習を行う。 ・反復学習を多く取り入れ、基礎・基本の定着を目指したドリル学習を実施していく。 ・字形を整えて書くことができるように、日常的にドリルノートを活用して、確認していく。 ・漢字の習熟度を確認するミニテストを週1回行っていく。 ・他教科と横断的に学習を進め、漢字を活用する機会を増やしていく。(社会科の新聞作りなど) 		

5	算数	<p>(調)前年度の結果では、目標値を上回っているが、区平均を下回る結果となった。分数の足し算・引き算や単位量当たりの大きさはよく理解しているが、奇数についての理解や小数のかけ算・わり算、作図に課題が見られた。</p>	<p>(学)集中して課題に取り組むことができる児童が多い。 (学)積極的に発言する児童に偏りがある。考え方を説明したり、言い回しを変えたりするなど、既習事項を活用して課題に取り組むことが苦手な児童が多い児童の実態がある。 (学)計算間違いが多い。単純な計算間違いから、小数点の位置、単位を変えて数字を表すなどで間違いが見られる。</p>	<p>・デジタルドリルを活用することで、児童の課題に合った問題を選定する。反復練習し、課題を克服することで学力を向上させる。 ・ノートには自分の考えを記入している児童が見られることから、小グループでの短い時間での話し合いを取り入れる。 ・ノートを詰めて書いている、マスを意識していない児童が見られることから、1マスに1文字を書くようノート指導を行う。 ・計算が終わった後、必ず確認する作業を定着させていく。</p>		
6	国語	<p>(調)国語全体を見ると、目標値も区平均も上回っている。 (調)「書くこと」は、区平均を上回っているが、目標値より8ポイント以上下回っている。 (調)「漢字を書く」では、区平均よりも4ポイント以上、目標値よりも6ポイント以上下回っている。しかし、「言葉の学習」に関しては区平均、目標値ともに上回り、言語に関する内容は定着しつつある。 (調)学年として漢字を書くこと、文章を書くことに課題がある。 (学)字の形を整えて書くことに個人差がある。</p>	<p>・決められたテーマについて自分の考えをもち、文章にしていこうと苦手意識がある児童がいる。 ・既習の漢字を正しく丁寧に書くことに、個人差が見られる。 ・言語に関する内容が定着してきているので、さらに「学習した内容を整理し、活用する力」を伸ばしていく。</p>	<p>・デジタルドリルを活用し、個人の課題に適した学習を進め、個別最適化学習を推進する。 ・多くの活動の中で、自分の考えをもち、それを文章化する機会を増やす。 ・国語の授業の中で、言語活動に特化した時間を設け、文字や言葉に意識させる。 ・ワークテストで80%に到達しなかった児童に対して、繰り返し練習させたり、フォローアップワークシートを活用したりしながら、習熟を図る。</p>		
6	算数	<p>(調)算数全体で見ると、目標値を上回っているが、区平均より下回っている。 (調)分数の足し算・引き算や単位量あたりの大きさはよく理解している。 (調)奇数の理解や小数のかけ算・わり算、作図に課題がある。 (学)自分の考えと友達の考えの共通点や相違点に意識して考えを深めようとするのが定着していない。</p>	<p>・かけ算やわり算では、速く正確に計算する力を身に付けさせる指導が必要な児童が見られる。 ・図形の展開図や見取り図、円や多角形の作図など、コンパスや定規を用いて作図することに苦手意識が見られる。 ・授業において、自分の考えをもち、友達の考えと比べながら考えを深めていくことに個人差が見られる。</p>	<p>・図形領域を中心としてタブレット端末を活用し、図形の展開図や見取り図のイメージを捉えたり、コンパスや定規などの操作を可視化したりする。 ・授業だけではなく、宿題などを通して、四則計算をする機会を増やす。 ・算数の授業だけではなく、その他の授業や日々の活動の中で、コンパスや三角定規を使うような機会を増やし、道具に慣れさせる。 ・自分の考えと友達の考えが見比べやすいようノート指導をする。また、児童に自分と他者の考えの共通点や相違点を意識させるよう発問する。</p>		

音楽	<p>(学)音楽活動に興味をもち、意欲的に取り組むことができる児童が多い。</p> <p>(学)聴いたり感じたりしたことを音楽の言葉で表現する力が十分ではない。また、表現することに苦手意識をもつ児童が多い。</p>	<p>・音楽の要素と曲想などの音楽の用語を使い分けられていない児童が多い。</p> <p>・聴いたり感じ取ったりすることはできるが、それを表現することに苦手意識があったり、自信がなかったりする児童が多い。</p>	<p>・表現をタブレット端末で記録して共有することで、自分の演奏を間接的に表現する方法を適宜取るなど、苦手意識を徐々に減らせるようにする。</p> <p>・児童が気付いたことや感じ取ったことを要素や曲想に分けて板書したり、似た言葉で補う機会を多くすることで、児童の思考を整理し学習の中で使えるようにする。</p> <p>・個人で考えをもつ時間、ペアやグループで考えを出し合ったり比較したりする時間、全体で確認する時間をそれぞれ適宜とり、自分の意見を表現することに慣れる活動を多く設ける。</p>		
図工	<p>(学)創造する楽しさを感じ、表現する基礎的能力が高い児童が多い。</p> <p>(学)身近な芸術作品について自分なりの見方や感じ方をもってそれを表現する力が十分ではない。</p>	<p>・楽しみながら活動に取り組む児童は多いが、じっくりと考えたり、作品をつくり込んだり等、学習を深めることが難しい児童が多い。</p> <p>・様々な作品に触れる機会が少ないため、主体的に表現しようとしていない児童もいる。</p>	<p>・タブレット端末を活用し、資料を探したり、参考作品の画像を参照したり、アイデアスケッチをワークシートで作成したりして、表現を深めていく。</p> <p>・表現を深めるために、互いの作品を鑑賞する機会を題材ごとに設け、よさを認め合い、表現への選択肢を増やしていく。</p> <p>・チェックカード等を活用し、考えを深めたり、アイデアを広げたりしていけるようにする。</p> <p>・表現する意欲を高めるために、材料・環境・友達等、表現と出合う場面の設定を工夫し、感性や想像力を活性化させる。</p>		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。

